

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第142集

# 枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ

長野県佐久市岩村田上直路遺跡Ⅱ発掘調査報告書

2007.3

上 田 昭  
佐久市教育委員会

## 例言

- 1 本書は上田 昭による集合住宅建設事業に伴う枇杷坂遺跡群上直路遺跡Ⅱの発掘調査報告書である。
- 2 事業主体者 佐久市長土呂 207 番地 1  
上田 昭
- 3 調査主体者 佐久市中込 3056  
佐久市教育委員会  
教育長 三石 昌彦
- 4 遺跡名及び発掘調査所在地  
枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ (IBK Ⅱ)  
佐久市岩村田 1077-8、1077-15
- 5 調査担当者 上原 学
- 6 本書の編集・執筆は上原が行った。
- 7 本書及び出土遺物は、佐久市教育委員会の責任下に保管されている。

## 凡例

- 1 遺構の略称は以下の通りである。  
H- 竪穴住居址
- 2 スクリーントーンは以下の通りである。

遺構

地山断面

掘方

遺物 赤色塗彩

- 1 挿図の縮尺は以下の通りである。  
遺構- 竪穴住居址 1/80  
遺物- 土器 1/4
- 2 遺物の写真番号と実測図番号は一致する。
- 3 遺構の標高は各遺構ごとに統一し、水糸高を標高とした。
- 4 調査グリッドは小グリッド4×4m、大グリッド40×40mである。

## 目次

例言・凡例・目次

- 第Ⅰ章 発掘調査の経緯…………… 1
1. 立地と経過…………… 1
  2. 調査体制…………… 1
  3. 遺構と遺物の詳細…………… 1
  4. 基本層序…………… 2
- 第Ⅱ章 遺構と遺物…………… 2
1. H1号住居址…………… 2
  2. 混入遺物…………… 3

写真図版

抄 録



調査区位置図 (1:100,000)



調査区位置図 (1:10,000)

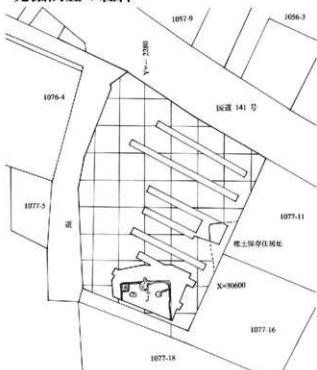
## 第I章 発掘調査の経緯

### 1. 立地と経過

枇杷坂遺跡群上直路遺跡Ⅱは佐久市岩村田市街地北西の浅間の麓から放射状に伸びる田切り地形の台地南端付近に位置し、現況は南西方向に向かって緩やかに傾斜する。標高は715m内外を囲る。

周辺地域には多くの遺跡が所在し、弥生時代から平安時代を主とする遺構が多数発見されている。代表的なものとしては、対象地東方にて弥生時代後期の住居址2軒、古墳時代の住居址3軒を調査した上直路遺跡をあげることができる。このうち弥生時代の住居内には、住居廃絶時に埋葬されたと思われる屋内埋葬墓が存在し、両腕に併せて14点以上の帯状円環形銅剣をはじめた人骨が発見され注目された。これまで佐久市内の調査によって、弥生時代の青銅又は鉄製銅を出土した遺跡は銅剣が上直路遺跡1号住居址屋内埋葬墓、五里田遺跡2号円形周溝墓、北一本柳遺跡1号住居址・1号土坑墓、円正坊遺跡V1号住居址、清水田遺跡Ⅱ2号住居址、鉄剣が上直路遺跡2号住居址、五里田遺跡5号住居址、後家山遺跡1号木棺墓など数多く認められる。このことから、佐久地域において金属製銅は身分を示す上で重要な装身具の一つであった可能性も考えられる。

今回、集合住宅建設事業が行われることとなり、遺構の有無を確認するため試掘調査を実施した。結果、住居址2軒が認められたことから、開発主体者と協議を重ね、開発に際して遺構の破壊が予測される住居址1軒について記録保存を目的とした発掘調査を佐久市教育委員会が主体となり実施する運びとなった。



試掘トレンチ・遺構配置図 (1:500)



上直路遺跡屋内埋葬墓遺物出土状況 (S60年調査)

### 2. 調査体制

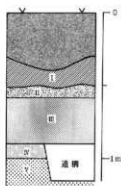
調査委託者	佐久市教育委員会	教育長	三石昌彦			
事務局	社会教育部長	柳沢 義春		文化財課長	中山 悟	
	文化財保護係長	高村 博文		文化財調査係長	高柳 正人	
	文化財保護係	萩原 留美	高橋 浩一			
	文化財調査係	林 幸彦	須藤 隆司	小林 眞寿	羽毛田卓也	
		富沢 一明	神津 格	上原 学	出澤 力	
調査主任		佐々木宗昭	森泉 かよ子		調査副主任	堺 益子
調査担当者		上原 学				
調査員		甘利 隆雄	菊池 喜重	清水 信一	武者 幸彦	

### 3. 遺構と遺物の詳細

遺 構	竪穴住居址	1軒	古墳時代中期～後期		
遺 物	土師器 (鉢・甕)	弥生土器 (壺・甕・高坏)	石製品 (すり・敲き石)	石器 (石鏃)	

#### 4. 基本層序

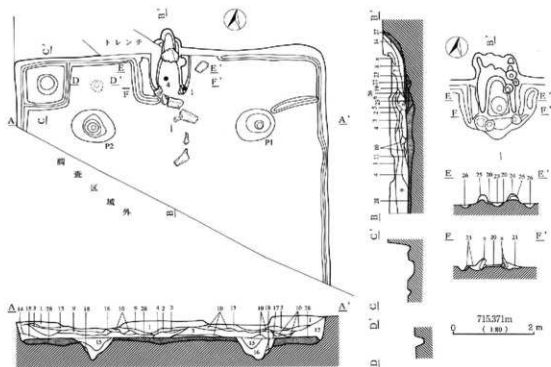
佐久市北部の台地上は、現在の浅間山が形成される以前 2800 m を超える火山であった黒斑火山が山体を吹き飛ばす大噴火の後、現在の浅間山の中心を成す前掛山に成長する際、降下火山灰及び軽石流が大きく 2 度に渡り堆積した。(下層から佐久市北部地域の第一軽石流・P1、佐久市北端地域の第二軽石流・P2) その厚さは地域によっては 20 m を超え、この堆積した黄褐色土を表土である黒褐色土が覆っている。更に遺跡内は以前水害にあったためか表土直下に砂層が認められた。層序は上層から宅地造成時の埋土、褐色灰色砂層、旧地表の黒褐色土、暗褐色土、黄褐色のローム土である。試掘調査での遺構確認は黄褐色ローム土上面で行ったが、本調査時にはローム上層の暗褐色土上面にて遺構の確認が可能であった。



基本層序模式図

## 第Ⅱ章 遺構と遺物

### 1. H1号住居址

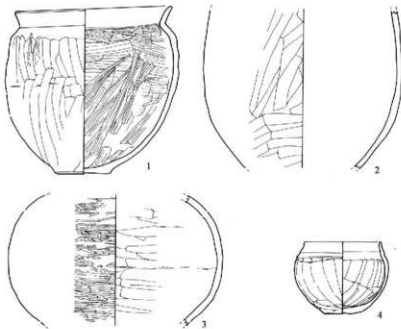


1. 暗褐色土(10YR3/5)軽石、 $\approx$ 4粒。
2. 出褐色土(10YR3/2)軽石、 $\approx$ 4粒。
3. 暗褐色土(10YR3/3) $\approx$ 4粒多量、軽石。
4. 暗褐色土(10YR3/3)軽石、 $\approx$ 4粒多量。
5. 灰褐色土(7.5YR4/2) $\approx$ 4粒、軽石、粘土粒。
6. 褐色土(7.5YR4/1)粘土主体、埋土含む。
7. 暗褐色土(5YR3/2)炭化物、軽石、粘土、粘土粒。
8. 暗褐色土(5YR3/2)粘土、粘土粒多量、炭化物含む。
9. 暗褐色土(10YR3/3) $\approx$ 4粒、軽石多い。
10. 暗褐色土(10YR3/2)粘土粒多い、 $\approx$ 4粒、軽石少量。
11. 暗褐色土(10YR3/4) $\approx$ 4粒やや多量、しまりあり。
12. 暗褐色土(10YR3/4) $\approx$ 4粒、軽石多量、しまりなし。
13. 暗褐色土(10YR3/5) $\approx$ 4粒多量、軽石やや多量。
14. 暗褐色土(5YR3/2)粘土粒少量。
15. 黄褐色土(10YR2/2) $\approx$ 4粒、軽石少量。
16. 褐色土(10YR4/3) $\approx$ 4粒、軽石多量。
17. 暗褐色土(10YR3/3) $\approx$ 3、褐色土の混合土。
18. 暗褐色土(10YR3/3) $\approx$ 4粒少量。
19. 暗褐色土(10YR3/2)炭化物、炭化物、粘土含む。
20. 暗褐色土(7.5YR2/3)粘土、炭化物多い。
21. 暗褐色土(10YR3/5) $\approx$ 4粒、しまり中多量。
22. 暗褐色土(5YR2/2)炭化物、粘土。
23. 暗褐色土(7.5YR2/2) $\approx$ 4、炭化物、埋土。
24. 暗褐色土(7.5YR3/2)粘土、軽石。
25. 暗褐色土(10YR4/3) $\approx$ 4粒、軽石。
26. 暗褐色土(7.5YR3/3)粘土、 $\approx$ 4粒。
27. 暗褐色土(10YR3/4) $\approx$ 4粒多い、粘土含む。
28. 暗褐色土(10YR3/5)褐色土混合土、しまりあり。(南方)

H1号住居址実測図

遺構は対象地の南端に位置し、南西コーナー付近は調査区域外となる。規模は東西7.6m、南北は確認規模の最大で6.2m、確認面から床面までの深さは最深で54cmを測る。平面形態は方形又は長方形と思われる。遺構は住居廃絶後に一帯が水害に見舞われたためか遺構上面は砂層に覆われていた。少なくとも古墳時代以降、周辺地域に砂を堆積させるような状況があったものと思われる。床面は堅く土間状を呈し、壁際に幅18cm、深さ10cm程度の周溝が巡らされていた。主柱穴は円形のピットが2個確認できた。いずれも掘り込みは最大径90cm以上と大型で底部に柱痕らしき円形の窪みが存在する。また北西コーナーには方形に区画した幅15cm程度の溝が存在し、区画された中央には径50cm、深さ15cmと窪み状の土坑が掘り込まれていた。さらに東壁からP1に延びる幅15cm程度の溝が認められたことから、住居内に間仕切り状の施設があった可能性を伺い知ることができた。カマドは北壁中央付近に構築され、破壊が著しいが、地山作り出しの長い両袖及び焚き口部の石材、煙道部立ち上がり付近の天井石及びカマド前部に焚き口部天井石らしき石材が横たわっていた。さらに床面一帯にカマドの構築に使用されたと思われる焼けた扁平な石材が散乱していた。カマドの袖に囲まれた火床部には灰、焼土が認められ、中央付近に完形の土師器鉢が残されていた。

遺物は土師器の鉢、甕、すり・敲き石が出土したが、住居の規模からすると出土量は少ない。また覆土内には流れ込みと思われる赤色塗彩を施した弥生時代後期の土器が多数含まれていた。本住居址の出土遺物は少ないが、特徴から古墳時代、5世紀後葉から6世紀代としたい。

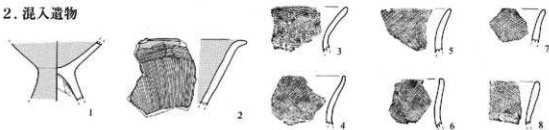


H1号住居址遺物実測図

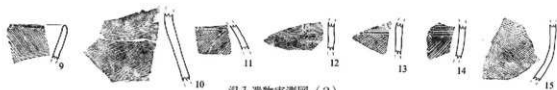
番号	器種	器形	口径cm	底径cm	器高cm	調査・発掘	保存庫・部位	備考
1	土師器	鉢	19.2	6.9	20.9	内庭壁下 外庭壁ヘラタズリ見ミダテ 内庭ハナタテ外庭ヘラタズリ	80	5Y25/4 焼い・赤褐色
2	土師器	甕	-	-	-	外庭壁-横ヘラタズリヘラタテ 内庭ヘラタテ	製器焼片	5Y25/4 焼い・赤褐色
3	土師器	鉢	-	-	-	外庭ヘラタズリ横横ミダテ 内庭横ヘラタテ 横横み面	製器焼片	5Y25/8 焼い・赤褐色
4	土師器	鉢	9.6	4.6	8.9	内庭内庭壁下 外庭横庭壁 東庭内庭壁ヘラタズリ 内庭ヘラタテ	100	5Y25/3 焼い・赤褐色
5	すり・敲き石	重量 198.9g、厚さ3.1cm、幅5.3cm、長径51.5cm、先端鋭さ5mm、4面テラ削				写枚参照		

H1号住居址遺物観察表

## 2. 混入遺物



混入遺物実測図 (1)



混入遺物実測図(2)

番号	器種	器形	部位	備考	番号	器種	器形	部位	備考
1	灰生土器	高坏	坏-脚部	坏部内内面・脚部外面赤色塗彩 ミ字キ	9	灰生土器	甕	口縁	外面1/3辺斜縁式文、脚部縦線式文
2	灰生土器	高坏	坏口縁	内外面赤色塗彩 内面ミ字キ・外面縦ミ字キ	10	灰生土器	甕	胴部	外面縦線式文
3	灰生土器	甕	口縁	外面縦線式文、脚部縦線式文	11	灰生土器	甕	胴部	外面縦線式文、脚部縦線式文
4	灰生土器	甕	口縁	外面縦線式文、脚部縦線式文	12	灰生土器	甕	胴部	外面縦線式文、脚部縦線式文
5	灰生土器	甕	口縁	外面縦線式文	13	灰生土器	甕	胴部	外面縦線式文、脚部縦線式文
6	灰生土器	甕	口縁	外面縦線式文	14	灰生土器	甕	胴部	外面縦線式文、脚部縦線式文
7	灰生土器	甕	口縁	外面縦線式文	15	灰生土器	甕	胴部	外面縦線式文
8	灰生土器	甕	口縁	外面縦線式文	16	石器	石鏃	頭部(長)	長さ21.5cm 最大幅1.19cm 厚さ2.6cm 重量5.8g 刃部磨

混入遺物観察表



H1号住居址確認状況(東から)



H1号住居址全景(東から)



H1号住居址北西コーナー(東から)



H1号住居址カマド(南から)



H1号住居址カマド遺物出土状況



H1号住居址カマド(南から)



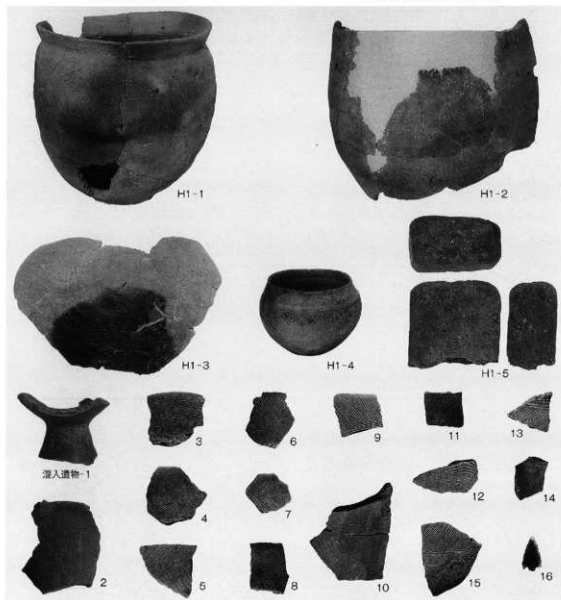
H1号住居址主柱穴



調査風景（東から）



H1号住居址掘方（東から）



出土遺物

## 報告書抄録

書名	枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ
ふりがな	びわごかいせきぐん かみすぐじいせきに
シリーズ名	佐久市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第142集
編著者名	上原 学
編集・発行機関	佐久市教育委員会
発行年月日	2007. 3
郵便番号	385-0006
電話番号	0267-68-7321
住所	長野県佐久市志賀 5953
遺跡名	枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ (IBKⅡ)
遺跡所在地	佐久市岩村Ⅲ 1077-15、1077-8
遺跡番号	41
経度	139.4829
緯度	36.1633
調査期間	2006.8.14 ~ 2006.8.19 (現場) 2006.8.21 ~ 2007.3 (整理)
調査面積	63 m <sup>2</sup>
調査原因	集合住宅建築
種別	集落址
主な時代	古墳時代
遺跡概要	遺構 竪穴住居址 1軒 (古墳時代) 遺物 土器 (弥生・古墳)、石製品 (古墳時代)、石鏃 (縄文時代?)
特記事項	

佐久市埋蔵文化財調査報告書 第142集  
枇杷坂遺跡群 上直路遺跡Ⅱ

2007年3月

編集・発行 佐久市教育委員会  
〒385-8501 長野県佐久市中込 3056  
文化財課  
〒385-0006 長野県佐久市志賀 5953  
☎ 0267-68-7321

印刷所 白田活版株式会社

